

授業協議会記録

1 研究の視点

- 「留学生に、日本の災害について伝える活動は、生徒のエージェンシーを発揮させるために有効だったか」

2 自評

- 先生方が見に来ていただくことが生徒のモチベーションにつながる。
- 災害については他教科でも学んでいる。今回は他教科で学んだことも生かして英語で伝えることに重点を置いた。実際に道後に出かけて、外国人観光客を相手にインタビューを行うことも考えたが、現実的に難しかった。そのため、愛大留学生に授業への参加をお願いしたところ、4人の留学生に協力していただけることになった。
- プレゼンについては、生徒に任せる形で作成させた。2つのグループに分かれて発表を行い、中には英語が苦手な生徒もいたが、得意な生徒がフォローしている姿が見られた。
- これから、言語活動を工夫し、英語を必然的に使用するような場面を設定した活動を取り入れたい。また、メタ認知力を高めるための振り返りについても研究していきたい。

3 質疑応答

- 活動を生徒に任せながらも、授業のねらいに向かわせるために、授業者として意識したことは何か。
- 知っていれば役に立つアウトプットに必要な表現や情報については、事前に指導した。あまりに教員主導にならないようにはどうすればいいか検討している。
- 生徒の発表用資料は、どれくらいの時間をかけて準備していたのか。
- 学校では1時間かけた。ロイロノートの共有ノートを使って準備した。
- 生徒が司会する場面は本单元以外でもよくあるのか。
- コーディネーターは今回が初めて。しかし、コーディネーターの生徒は今年度弁論大会に出場していたので、そのことが自信にも繋がっていたのだと思う。
- 今回の学習課題を自分事にするためにどのような工夫をしたか。
- 自分事として捉えさせる工夫として、自分たちの住んでいる町を題材に用い、留学生に説明することをねらいとした。相手に説明する上で、生徒自身がどの程度、防災について理解しているのかを振り返らせ、必要な情報を収集することから始めた。生徒たちは活動の中で、防災マップを使って住んでいる場所を確認し、相手のことを考えながら発表内容を吟味するなど、自分事として考えられていたと思う。また、生徒一人一人に役割があるため、責任感が生まれていた。

4 意見

- 公立学校は40人に対して一人しかALTがいないのでうらやましい。
- 生徒たちが活発に発言していた。
- 四人の外国人が授業に入ること、どうなるのかワクワクしていた。事前情報を知るべきか、それとも何も知らない状況が良いのかは検討する必要がある。
- 他教科で学んだことが生かされていた。
- 生徒が主体的に発表内容を考えていた。
- 3年生は避難訓練において、2次避難を経験していたので、その経験が生かされていた。自分だけが避難するのではなく、避難を助ける側も経験したことが生かされている。
- 生徒たちが単純な英語を使って分かりやすく説明していたことが良かった。
- 生徒に活動を任せていた分、生徒たちが面白くクイズにしていたり、説明が不十分であると感じたりする部分があった。内容的に、もっと真剣に命について考えることができたはず。
- 身近でできる防災グッズ作り（レインコート、簡易こたつ）は良かった。
- やさしい(simple, kind)日本語で外国人に説明する。
- 教科領域を横断した学びを生かして英語で伝える。
- リーダーとしてのスキルを生かす。
- 学習したことを行動に移すことができれば、“変革を起こす”ことができる。＝エージェンシーを高めることができる。
- エージェンシーを高めるためには、こうすれば上手くいくという学習ストラテジー
- 動機付けー英語の学習をしたい！相手に伝えたい！